

SDGs 未来都市にふさわしい 環境政策の推進について

(北九州市地球温暖化対策実行計画の進捗状況について)

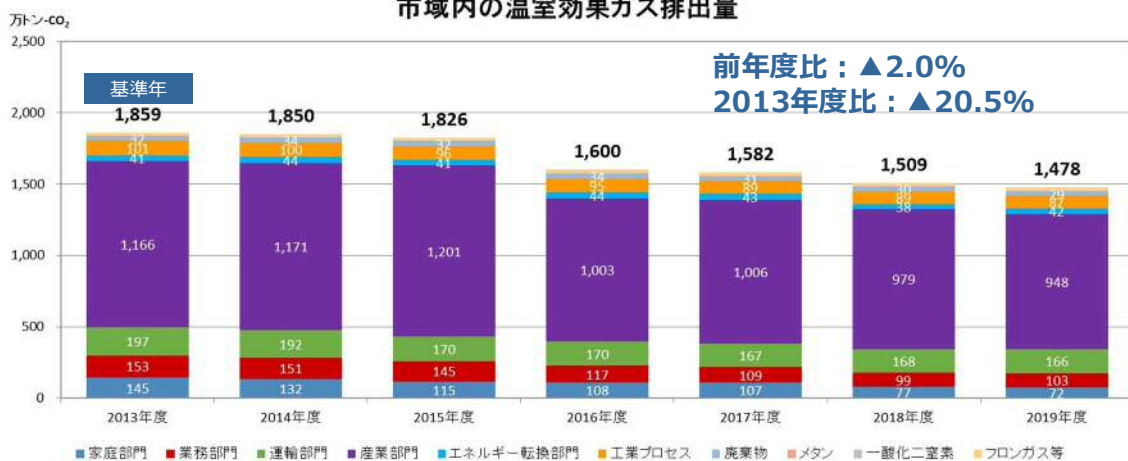
1

温室効果ガス排出量（市域）

【市域】2030年度（達成目標：ターゲット）

2013年度比で47%以上削減

市域内の温室効果ガス排出量



単位：万トンCO₂

区分	2013年度	2018年度	2019年度	前年度比	基準年度比
家庭部門	145	77	72	▲6.4%	▲50.6%
業務部門	153	99	103	+4.5%	▲32.7%
運輸部門	197	168	166	▲0.9%	▲15.6%
産業部門	1,166	979	948	▲3.2%	▲18.7%

2

(参考) 温室効果ガス排出量の増減要因分析

部門	2013年度比削減量 (万トンCO ₂)	2013年度からの主な増減要因
家庭	▲74	再エネの拡大等による電力のCO ₂ 排出原単位※の改善や、省エネの取組等によりエネルギー消費原単位（世帯当たりのエネルギー消費量）が改善したこと等により、CO ₂ 排出量が減少した。
業務	▲50	再エネの拡大等による電力のCO ₂ 排出原単位※の改善や、省エネの取組等によりエネルギー消費原単位（床面積あたりのエネルギー消費量）が改善したこと等により、CO ₂ 排出量が減少した。
運輸	▲31	燃費の改善や次世代自動車の普及等により自動車全体のエネルギー消費原単位（CO ₂ /台・km）が改善したことや、貨物自動車などの走行量が減少したこと等により、CO ₂ 排出量が減少した。
産業	▲218	市内の製造品出荷額等は増加しているものの、再エネの拡大等による電力のCO ₂ 排出原単位※の改善や、製造プロセスに係るエネルギー消費原単位（製造品出荷額等あたりのエネルギー消費量）が改善したこと等により、CO ₂ 排出量が減少した。

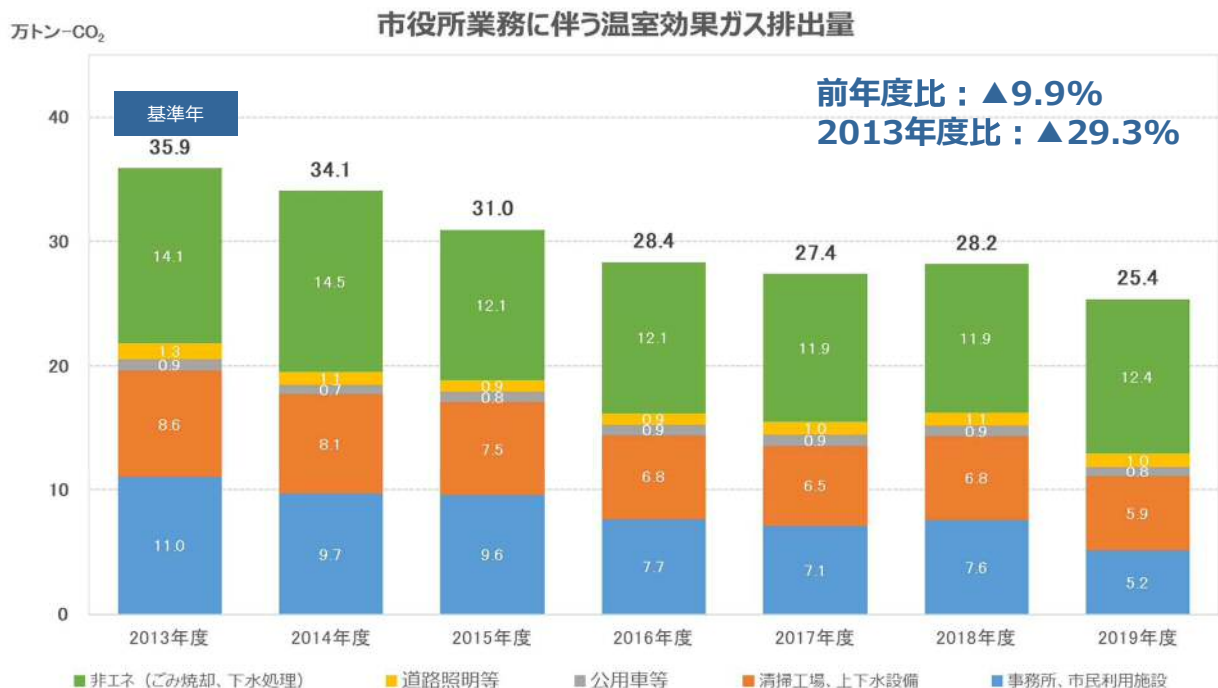
※「電力のCO₂排出原単位」とは、一定の電力を作り出す際に排出する二酸化炭素の量を示す。電源の構成において、再生可能エネルギーの普及などに伴い火力発電の割合が減少すると値が改善する。

3

温室効果ガス排出量（市役所）

【市役所】2030年度（達成目標：ターゲット）

2013年度比で**60%削減**



4

取組総括（緩和①）

	A (予定以上に実施)	B (予定どおり実施)	C (一部実施)	D (未実施(廃止含))
家庭部門	0	6	0	0

- ・令和4年1月に「**KitaQ Zero Carbon（キタキューゼロカーボン）**」プロジェクトを始動し、市内の脱炭素関連情報を一元化して情報発信する**ポータルサイトを開設**するなど、広報啓発に積極的に取り組んだ。
- ・既存住宅を購入・相続等を行った世帯を対象に、**新たに居住するために実施する工等に資する改修工事費の一部を補助**した。

	A (予定以上に実施)	B (予定どおり実施)	C (一部実施)	D (未実施(廃止含))
業務部門	2	2	1	0

- ・建築物の環境性能を自己評価して届出を行う「**CASBEE北九州（北九州市建築物総合環境性能評価制度）**」において目標（15件）を上回る19件の届出を受理した。
- ・中小企業を対象に**再エネ100%電力化に向けた太陽光発電・蓄電池の導入費用の一部を助成**するなどの導入支援を行った。
- ・一方で、公共施設における太陽光発電等の導入では、近年の世界情勢や円安の影響を受け、**太陽光発電・蓄電池ともにコストが増加したため計画の見直し等**が生じた。

	A (予定以上に実施)	B (予定どおり実施)	C (一部実施)	D (未実施(廃止含))
運輸部門	0	6	0	0

- ・**燃料電池自動車（FCV）の導入費用の一部助成**を実施したほか、イベントにおけるFCV・EVからの外部給電デモやPR、エコドライブ・ノーマイカーの普及啓発などを実施した。
- ・令和4年3月に「**北九州市環境首都総合交通戦略（北九州市地域公共交通計画）**」を改訂し、公共交通の利用促進及び運輸部門のCO2削減に向けた取組を総合的に推進した。

5

取組総括（緩和②・国際）

	A (予定以上に実施)	B (予定どおり実施)	C (一部実施)	D (未実施(廃止含))
産業部門(エネルギーを含む)	0	7	1	0

- ・環境と経済の好循環による2050年ゼロカーボンシティの実現に向けて、「**エネルギーの脱炭素化**」と「**イノベーションの推進**」に戦略的に取り組むため、「**北九州市グリーン成長戦略**」を策定（令和4年2月）した。
- ・**風力発電関連産業の総合拠点化**の推進に加え、地域の再エネを活用してCO2フリー水素を製造・利用するといった**水素社会の実現に向けた実証事業**などに取り組んだ。
- ・北九州市環境未来技術開発助成事業では、重点分野に「**新エネルギー・省エネルギー及び未利用エネルギー**」や「**水素エネルギー**」を設定して**各1件ずつ**を採択し、民間・大学の技術開発の支援を行った。

	A (予定以上に実施)	B (予定どおり実施)	C (一部実施)	D (未実施(廃止含))
その他(廃棄物・吸収源など)	1	21	2	0

- ・令和5年度の本格的な事業開始に向けて、令和4年2月に**製品プラスチック一括回収実証事業**を実施した。
- ・市の清掃工場において、**ごみの焼却時に発生する熱エネルギーを有効利用して発電**するとともに、**余剰分を電力会社へ売電**し、発電時に発生する温室効果ガスの削減に貢献した。
- ・第2次北九州市生物多様性戦略に基づき、**市民・NPO・行政など様々な主体が市内各地で植樹（平成20年度から令和3年度までの累計：750,223本）**を行った。

	A (予定以上に実施)	B (予定どおり実施)	C (一部実施)	D (未実施(廃止含))
国際貢献	0	4	0	0

- ・アジア低炭素化センターの事業を推進し、環境に関する多様な技術や社会システム等を海外に輸出することで、地域経済の活性化を推進した。具体的には、**アジア諸都市とのネットワークや環境省、JICA等の資金を活用しながら、市内企業の海外ビジネス展開支援**を行い、**令和3年度までに海外16ヶ国・地域、87都市で248件のプロジェクトを実施**した。

6

取組総括（適応）

	A (予定以上に実施)	B (予定どおり実施)	C (一部実施)	D (未実施(廃止含))
気候変動適応	1	40	6	0

<農業・林業・水産業>

- ・荒廃森林整備事業において、森林の強度間伐（73.73ha）や侵入竹伐採（8.69ha）を実施して森林の健全な育成を行った。
- ・水産環境整備事業において、藻場の保全活動を行う活動組織に対して支援を行った。

<水環境・水資源>

- ・合流改善事業において、水質改善を目的とした分流化工事（雨水管の整備）を実施した。
- ・下水処理水を場内等で再利用することにより、水資源の有効活用を行った。

<自然生態系>

- ・第2次北九州市生物多様性戦略に基づき、市民・NPO・行政など様々な主体が市内各地で植樹（平成20年度から令和3年度までの累計：750,223本）を行った。【再掲】
- ・特別緑地保全地区や風致地区など特に良好な自然が保たれている区域での開発行為等に対し、法律や条例に基づく助言・指導を通じて緑地の確保を図った。

<自然災害・沿岸域>

- ・迅速な情報発表を可能とする総合防災情報システムを構築したほか、防災ガイドブックやハザードマップを作成・更新し、市内全世帯・全事務所へ配布した。
- ・局地化・集中化する豪雨から市民の生活を守るため、より一層効果的な雨水整備を進める「重点整備地区（16地区）」を設定し、R3年度は目標としていた1地区の整備を完了した。

<健康>

- ・市政だよりや市ホームページ等に「新しい生活様式」での熱中症予防について啓発や注意喚起を行ったほか、北九州市健康アプリ「GO! GO!あるくちやKitaQ」を活用し、リアルタイムに熱中症予測情報を発信し、アプリ利用者へ熱中症の注意喚起を行った。（アプリダウンロード数：R3年度末13,827人）

<産業経済活動・国民生活・都市生活>

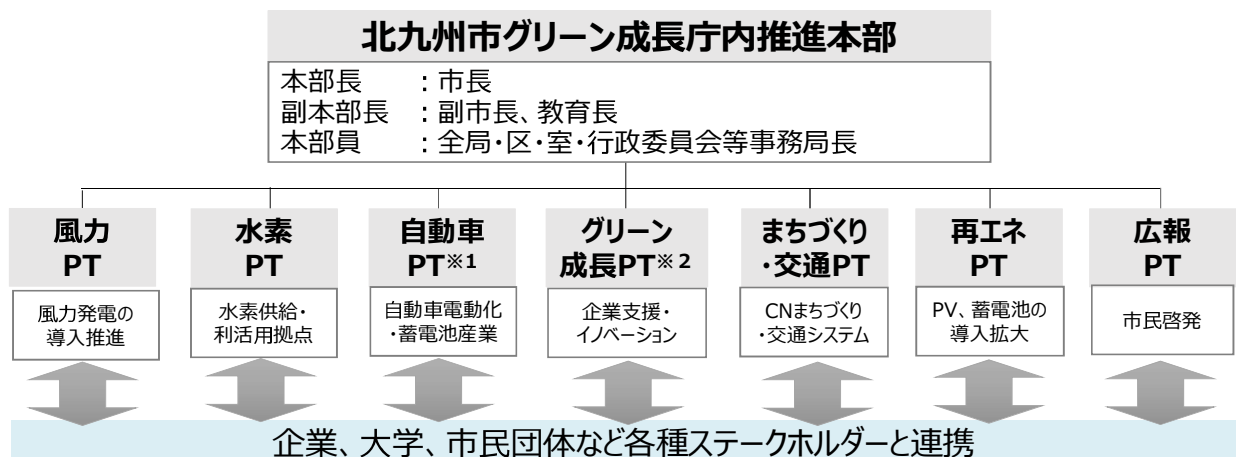
- ・防災訓練において、電気自動車を活用した外部給電のデモ訓練を行い、防災力強化及び市民広報を行った。

7

【トピックス】北九州市グリーン成長庁内推進本部の設置

市が率先実行して先導的モデルを構築し、民間へ横展開を図る

- グリーン成長の推進に関する重要な施策の推進及び総合調整
- 地球温暖化対策実行計画やグリーン成長戦略等に基づく取組の進捗管理



※1：次世代自動車関連産業拠点化PT ※2：グリーン成長プラットフォームPT

<R4開催実績>

- 第1回会議（R4.5.31）：北九州市グリーン成長庁内推進本部を設置
- 第2回会議（R4.9.1）：グリーン成長に向けた6つの重点分野を設定
- 第3回会議（R4.11.28）：グリーン成長に向けた各PTの検討状況及び今後の取組

8

【トピックス】脱炭素先行地域

脱炭素先行地域の選定

- 令和4年4月、北九州都市圏域と連携した本市の提案内容が、地域特性に応じた脱炭素に先行的に取り組む地域として、国（環境省）から『脱炭素先行地域』に選定
- 本市の提案概要
 - ・低コスト型第三者所有モデルによる太陽光パネル、蓄電池／EV、省エネ設備の導入
 - ・再エネの導入量：最大約37MW（北九州都市圏域全体）
 - ・太陽光発電導入の箇所数：約290箇所（本市の公共施設分）
- 事業規模
総事業費97億円（民間資金活用を含む） ※国の「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」等を活用



脱炭素先行地域認定証授与式（令和4年6月1日）

9

【トピックス】EVシェアリング

EVシェアリング実証事業（自治体—企業間）

- 令和4年10月、(株)井筒屋とともに「自治体—企業間EVシェアリング実証事業」を開始
- 公用車として電気自動車を4台導入し、井筒屋とシェアリング利用することによって、新たな車の利用形態や車の稼働率の向上による導入コスト低減に向けたモデルの構築を目指す。

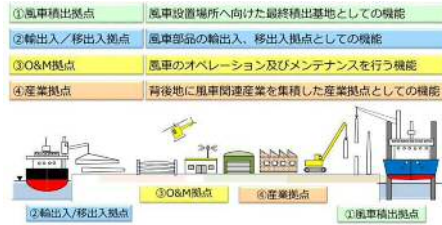


10

【トピックス】風力発電関連産業の総合拠点化と人材育成

風力発電関連産業の総合拠点形成

- **基地港湾をはじめとする港湾エリア**を中心に、洋上風力発電に関する4つの拠点機能の集積に向けて取組を推進。
- **SEP船基地事務所の開設や地元企業による風車基礎生産の実現**に加え、更なる立地促進・地元参入に向け、風車基幹部材、ブレード、タワー、基礎等主要部材製造事業者と協議を実施・継続。



風力発電産業の人材育成

- **【北九州市洋上風力キャンプ】**
 - ・大学生向け（講義、浮体式実証機視察、企業訪問、グループワーク）
 - ・高専生向け（企業での講義、実技体験）、高校生向け（企業訪問、浮体式実証機視察）
 - ・シンポジウム：延べ約570人（オンラインを含む）
- **【北九州市風力発電人材育成連絡会】**
 - ・学校と企業のマッチングを行い、地元企業への就職を後押し
- これらの取組を通じ、計5人が採用内定（4校、3社）

11

【トピックス】Horasisアジアミーティング

Horasisアジアミーティングの日本初開催（令和4年11月20日～22日）

- OECDからアジアで唯一「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定されたことや環境ビジネスを牽引してきた実績が評価され誘致に成功
- **アジアを中心に企業経営者・投資家など約200名が参加**
- 本市の環境関係技術等の情報発信を行うとともに、北九州らしさあふれるおもてなしで歓迎

ホラシスアジアミーティングの様子



開会式



ディスカッションの様子



市内企業等PRゾーン



エクスカーション



北橋市長とリヒター会長から
脱炭素・グリーン成長のメッセージを世界へ発信

12

【トピックス】KitaQ Zero Carbon プロジェクト



オール北九州の「市民環境力」を集結し、市民・企業との共創によるカーボンニュートラルを実現を目指し、2022年1月に始動したプロジェクト

ポータルサイト

基盤整備	ポータルサイト	市内の脱炭素情報の「ハブ」として、行政や企業等の「脱炭素」に資する情報を一元化して発信するプロジェクト専用ポータルサイトを整備	
	アクションの見える化	民間企業が提供するサービス「actcoin（アクトコイン）」を活用し、金銭的価値を有しないポイントによりプロジェクトの参加状況を見える化	
普及拡大に向けた取組	学生	学生サポーター	若者世代ニーズを把握し、学生の柔軟なアイデアや発想、行動力を活かすため、市内大学の学生有志を「脱炭素学生サポーター」として任命し、連携して取組を実施
	企業	パートナー制度	プロジェクト賛同事業者を「パートナー」として位置付け、市民のライフスタイル転換に向けた連携した取組を加速させることにより、アクション実践の場を数多く創出
	市民・団体	環境活動応援キャンペーン	actcoinの総数が100万コインに到達すると、民間企業が市内環境活動団体に寄付を行うキャンペーンを実施し、参加者同士のつながりやアクションのモチベーションを創出
	市民	身近なアクションの見える化	国の補助事業を活用し、「宅配便ロッカーの利用」や「小型電子機器の回収」といった身近なアクションをactcoinで見える化する新たな機能を実装し、市民生活とプロジェクトとの接点を増やすことで、訴求力を高める

3年間で **6万人** のアクション創出を目指す

13

【トピックス】地元企業等との連携体制の構築

(50音順)

(株) 井筒屋	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 電動車のカーシェアリング実証事業の実施 ✓ 再生可能エネルギーの導入拡大によるゼロカーボンドライブの普及やCO2排出量の削減
九州工業大学	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 次世代型太陽電池の社会実装を目指した実証事業の実施 ✓ 大規模蓄電池の制御手法の確立と社会実装を目指した実証事業の実施
九州電力 (株)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 蓄電池の活用などを通じた再生可能エネルギーの利活用及び導入拡大 ✓ 北九州都市圏域における脱炭素の取組の推進
西部ガス (株)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ メタネーション技術の利活用推進を含めた熱需要の低・脱炭素化 ✓ エネルギー使用の最適化
ダイキン工業 (株)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 第三者所有方式による高効率空調設備の普及や空調機器を利用した地域単位のエネルギーマネジメント ✓ 再生冷媒の導入及び活用
(株) デンソー九州	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中小企業向け製造ラインの効率化支援 ✓ 充放電器、充電器に関する実証を通じたEV、PHEV 及びV2X の普及促進
トヨタ自動車九州 (株)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 電動車バッテリーの3R (リデュース、リユース、リサイクル) の取組推進 ✓ 水素の利活用に向けた情報共有・連携体制の構築
(株) Yanekara	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 太陽光パネルから効率的に電動車に充電する充放電器の社会実装の推進 ✓ 充放電器の制御による再エネの最適利用に寄与する仕組みの構築

14